

消雪の遅れによるりんごの生育への悪影響とその軽減対策

農林総合研究センターりんご試験場 栽培部

平成17年1～3月の大雪は、県内のりんご樹に甚大な被害を与えました。さらに、りんご園の消雪も遅れたことから、①同一樹において、雪に長期間埋もれていた下枝（発出部が地上高90cm以下）の開花が、埋もれていなかった上枝（発出部が地上高160cm以上）よりも遅れる、②下枝での果実肥大が上枝の果実より劣り、上枝と下枝とで果実の大きさの揃いも悪くなるなどの悪影響が観察されました。しかし、融雪促進剤を散布してりんご園の消雪を早めた場合、同一樹の上枝と下枝で開花が揃い、下枝での果実肥大が良好となり、収穫果の大きさや揃いも良くなりました。

これらの結果から、消雪の遅れによるりんごの開花や果実肥大への悪影響を軽減するためには、3月上旬になっても下枝が雪に埋まっている場合、3月中～下旬に融雪促進材（土、くん炭や市販の融雪促進剤）を2～3回程度散布して、りんご園の消雪を積極的に早める必要があることを明らかにしました。



写真 消雪が遅れた園地での開花状況

（撮影日：平成17年5月19日）

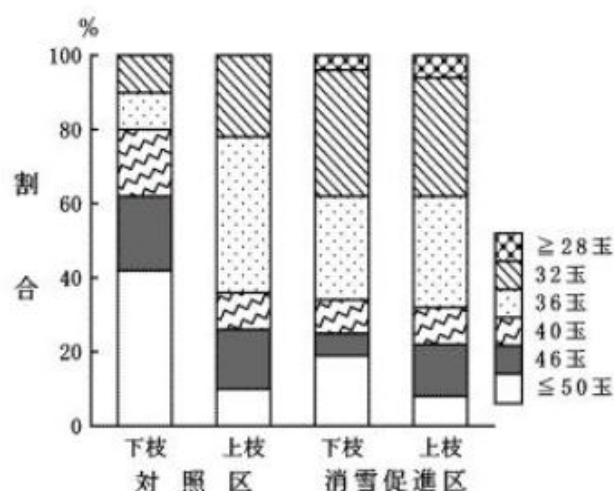


図2 果実の玉数別割合

- (注) 1. 消雪促進区：市販の融雪促進剤を3月14日と3月22日に散布した。
 2. 対照区：春先の作業を進めるため、4月4日に同上の融雪促進剤を散布した。
 3. 玉数（10kg詰）は、最終調査時（10月25日）の果実横径で区分した。